

小學諸禮

特35

605

會 函 架 號	大日本教育會館		東 新 一 二
	室 三 第	一 册 號	

012032-000-7

特35-605

小學諸禮式

近藤 瓶城/編

M15

AAG-0085



近藤瓶城編輯

小學諸禮式

全

東京 中近堂藏版



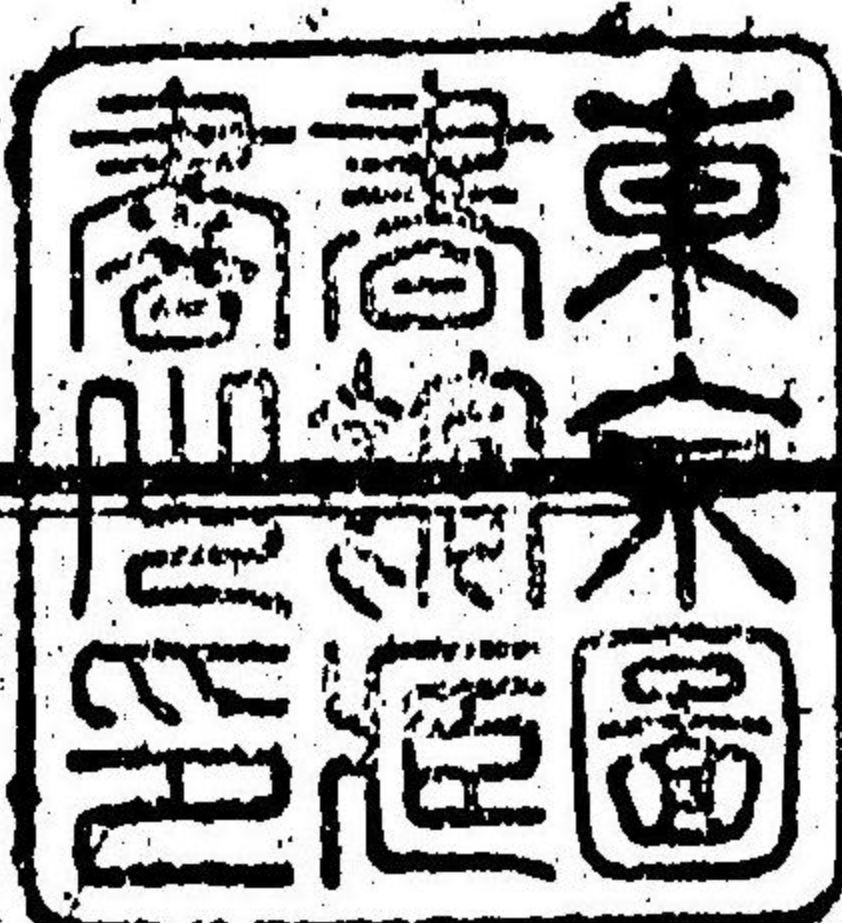
特35
605

小學諸禮式

目錄

起居ノ部

立禮 ○座禮 ○平伏 ○膝行 ○拜謁 ○貴人ノ
 前ヲ過ル ○禮ノ容儀 ○目遣ヒ 及 行步 ○詞
 遣ヒ ○衣服ノ着シ様袴着シ様 ○貴人ノ席
 ニテノ心得 ○扇ノ扱ヒ ○障子襖ノ開閉 ○
 貴人ニ途上ニ逢フ ○道連レ ○着坐ノ時宜
 ○貴人ノ座ニ入ル ○貴人ヲ宅ニ迎フ ○講
 談席ニ出ル ○人ノ前ニテ書籍ノ見様 ○懷



小學諸禮式

目錄

紙短冊見様○立花見様○掛物見様○香ヲ
キク○器物ノ見様

取扱ノ部

熨斗蛇及ヒ昆布ノ披露○肴樽ノ披露○樽
ノ披露○臺ニ積タル魚鳥ノ披露○折ノ物
披露○茶ノ出シ様○硯料紙ヲ進ム○書籍
ヲ進ム○書狀ヲ進ム○扇ヲ進ム○扇ニ載
セテ物ヲ進ム○小刀ヲ進ム○樂器ヲ進ム
○盤ノ物ヲ進ム○鞠ヲ進ム○花ヲ進ム○
楊枝ヲ進ム○手水ニ陪ス○掛物ノ扱ヒ○

屏風ノ扱ヒ○燭臺ノ扱ヒ○貴人ニ言語ヲ
交ユ○陪坐ノ心掛○代焼香○盲人ヲ相ク

饗膳ノ部

客ヲ招ク心得○吸物及ヒ取肴出シ様○盃
ノ出シ様○持參ノ酒○肴据へ様○臺ノ物
及ヒ押へヲ出ス○折及ヒ取スエ冷シ物ヲ
出ス○當座ノ臺ヲ出ス○菓子ヲ出ス○通
ヒノ者心得○手長ノ心得○多客ノ席通ヒ
ノ心得○酌ノ差別○三獻ノ酌○セコニ入
リ様盃ノ元ヲ隔ツ○膳持チ様○膳ノ据へ

様○飯ノ繼キ様○汁ノ替様○引キ物ノ取
分ケ様○食籠ノ出シ様○取持人ノ心得

飲食ノ部

客ノ心得○相伴ノ心得○茶飲ミ様○盃ノ
獻酬○貴人ノ盃○戴カヌ盃○盃酒受取り
様○貴人肴ヲ賜フ○返盃○貴人ノ酌飲ミ
様○中飲ノ仕様○遊興ノ酒○吸物食シ様
膳ニ向フ心得○食事ノ次第○再進ノ受ケ
様○汁ノ替ヘ様○飯ニ汁ノカケ様○貴人
自ラ引物ノ時受ケ様○串物食シ様○食事

ノ心得○湯漬食シ様○赤飯食様○破籠ノ
食シ様○切麥等食シ様○餅ノ食シ様○饅
頭食シ様○佛事ノ點心○瓜ノ食シ様○熟
柿ノ食シ様○柑子ノ食シ様○西洋料理立
食ハ大略

目錄終

小學諸禮式

起居ノ部

立禮

立禮ニ、最敬禮。及ヒ敬禮ノニアリ、最敬禮ハ帽ヲ脱シテ、左ノ腋ニ挿ミ、腰ヲ屈メ、右手ヲ膝ニ當テ、拜ス、帽ヲ着セザル片ハ、腰ヲ屈メ、兩手ヲ腰ノ上ニ當テ、拜ス、敬禮ハ帽ヲ脱シテ、少シ領ク、帽ヲ着セザル片ハ、其頭ヲ領クノミ、是レ明治八年定メラレタル所ノ禮式ナリ、

近藤瓶城編輯



座禮

坐禮ハ、立禮ノ外、平生主客應接ニ缺ベカラザル
 容儀ナリ、此坐禮ニ真行草ノ三様アリ、左右ノ手
 ヲ組ミ合セ、鼻ヘ手ノ附ク程ニ頭ヲ下ルハ、真ノ
 禮ナリ、兩手ヲスリ合フ程、一所ニ寄セ、頭ヲ少シ
 緩ク下ケルハ、行ノ禮ナリ、兩手ヲツキ間ヲ四寸
 ホト開キ、頭ヲ纔カニ下ケルハ、草ノ禮ナリ、總
 リ下ケテ、肩ヲ下ケサレハ、首筋アキテ見苦シ、頭計テ
 ノ高キモ亦見苦シ、腰肩トモニ等シク下ケ同シ
 礼ヲシテ容儀ト云フク

平伏

平伏ハ兩手ヲツキ、差ウツフキ、頭ヲ地ニツケテ
礼ヲナス也、是貴人ヘノ坐禮也、平伏ニ兩手ヲツ
ク片、兩ノ臂ヲ膝ノ上ニ置クベシ、疊ニツケルハ
見苦シ、又等輩ニハ兩手ヲツキ、頭ヲツケズ、少シ
ウツムキテ、禮ヲ為スベシ、

膝行

膝行ハ、貴人ノ前ヘ進ム禮ナリ、兩膝ヲツキ、ハヒ
出ルヲ云フ、退ク時モ同シ、進退トモニ、三手三足
ナリ、

拜謁

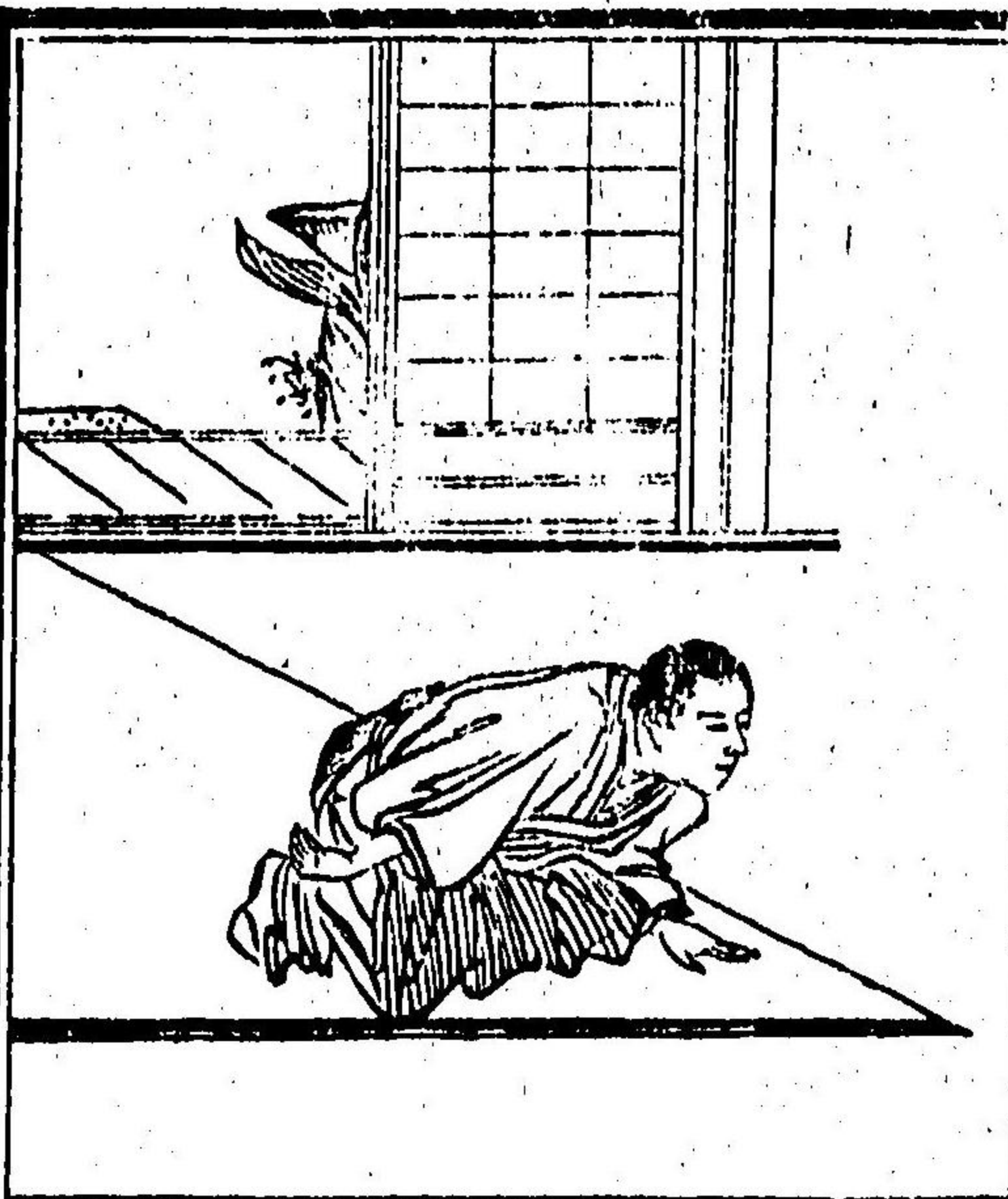
取次アリテ、貴人ニ目見エスルニハ、取次ノ者ヨ
リ三尺計リ下リテ、筋違ニ從ヒ行クヘシ、取次相
圖ニ後ヲ顧ル時、坐シテ禮ヲ為ヘシ、取次名前ヲ
披露スル時、貴人ノ顔ヲソツト見テ、頭ヲ下ゲ、禮
ヲ為スヘシ、取次ナクシテ目見エスル時、貴人聲
ヲカケラレハ、其儘カイ込、後シサリシテ又頭ヲ
下ル也、

貴人ノ前ヲ過ル

貴人ノ目通ヲ行クニハ、其方ニ向ヒタル手ト、膝
ヲ突クヘシ、貴人ノ方ニ向ヒタル足ヲ、先ヘ踏出

ス可カラス、又貴人二人居マス中間ヲ行ク片ハ、
左右ノ手ト膝ヲ突テ、蹲居シテ過クヘシ、蹲居ハ
ツクハヒナリ

禮ノ容儀



坐禮ニハ、カイ込、及ヒ小寄
セノ膝ト云フイアリ、一切
ノ立居ニ用ウ、平生習ヒ置
マシ、カイ込ハ、坐シテ禮ヲ
為ス時、左ノ手ヲツキ、右ノ
手ヲ膝ノ上ニ置キ、右ノ膝

ヲ後ヘ引サマニ、袴ノ裾ノバツトナラヌ様ニ、右
ノ手ニテ、カイ込、左ノ膝ヲ引合セテ、兩手ヲ突
クナリ、又小寄せトハ、立ツ時、尻ヲ上ケ、兩足ヲ爪
立、足跟ノ上ニ尻ヲ据ヘ、左右ノ手ヲ膝ノ上ニ取
リ、下坐ノ方ノ膝ヲ、一尺許リモ横サマニ開キ、上
座ノ膝ヲ、初メ開キシ膝ノ所ヘスリヨセ、又初ノ
開キシ膝ノ方ヘカヲ入レ、ヒネリ向ケサマニ、踏
出シ立ナリ、何方ニテモ、下座ノ方ヘ立ヘシ、貴人
ノ前ヨリ、直ニ立テハ、我背、貴人ニ向ヒ、無禮ナリ、
總テ立ント思フ片、先ヅ居敷ノ下ニテ、兩ノ跟ヲ

立テネハ立ニクシ、此小寄セノ膝ヲ又ツメ開
キトモ云フナリ、

目遣ヒ及ヒ行歩

目遣ヒハ、容儀ヲ修ムルノ第一ナリ、横目流シ目、
ソラ目等遣フ可カラス、又左右前後ヲ見廻ス可
カラス、行歩ニソリタルハ、横柄ナリ、腰ノ屈ミタ
ルハ、憂ナリ、足ヲ高上ケスルナク、又スリ足ス
可カラス、タ、心シヅカニ、スラ、ト跟ヲ付テ、
歩行スヘシ、坐ニアル物ヲ踏越ルナク有ヘカラス、
通ル可キ道ニ物アラハ、跪ヒテ傍ヘトリ置クヘ

シ、双ノ手平生ハ兩膝ニ置クベシ、用ナキ手ヲ動
ス可カラス、指ヲナラスハ無禮ナリ、寒中コ、エ
タル時ハ、袂ノ内ニテ温ムヘシ、

詞遣ヒ

詞ハ高低ナク、遲速ナク、能ク分カル様ニ言フヘ
シ、平生慎テ俗ノ流行詞、輕ル口、及ヒ賤キ詞ナト
遣フ可ラス、貴人賓客ノ席ニテ、フト言出スア
ルモノ也、人ノ咄シ半ニ、我カ咄シ仕出ス、無禮
也、又人ノ考案杯ヲ聞キ、我カ分別ヨリ出タル如
ク、言フ可カラス、必ス誰々ニ聞タリト言フベシ、

爪立テネハ立ニクシ此小寄セノ膝ヲ又ツメ開
キトモ云フナリ、

目遣ヒ及ヒ行歩

目遣ヒハ容儀ヲ修ムルノ第一ナリ、横目流シ目
ソラ目等遣フ可カラス、又左右前後ヲ見廻ス可
カラス、行歩ニソリタルハ横柄ナリ、腰ノ屈ミ夕
ルハ憂ナリ、足ヲ高上ケスルナク、又スリ足ス
可カラス、夕、心シヅカニ、スラ、ト跟ヲ付テ、
歩行スヘシ、坐ニアル物ヲ踏越ルナク有ヘカラス、
通ル可キ道ニ物アラハ跪ヒテ傍ヘトリ置クヘ

シ、双ノ手平生ハ兩膝ニ置クベシ、用ナキ手ヲ動
ス可カラス、指ヲナラスハ無禮ナリ、寒中コ、エ
タル時ハ、袂ノ内ニテ温ムヘシ、

詞遣ヒ

詞ハ高低ナク、遲速ナク、能ク分カル様ニ言フヘ
シ、平生慎テ俗ノ流行詞、輕ル口、及ヒ賤キ詞ナト
遣フ可ラス、貴人賓客ノ席ニテ、フト言出スナ
ルモノ也、人ノ咄シ半ニ、我カ咄シ仕出スナ、無禮
也、又人ノ考案杯ヲ聞キ、我カ分別ヨリ出タル如
ク、言フ可カラス、必ス誰々ニ聞タリト言フベシ、

衣服ノ着シ様

衣紋ハ、ユカミナク、正シク着ナスヲ善トス、人ノ目ニ立ツ様ニスヘカラス、人前ニテ袴ノヒダ繕ヒスルヲ失禮ナリ、

袴着シ様

袴着ケ様ハ、左右ノ足ヲ入レテ、後ニ前腰ヲ當ツヘシ、凶禮ニハ、前腰ヲ當テ、足ヲ入ル、ナリ、

貴人ノ席ニテノ心得

貴人ノ席ニテ、鼻カムヲ無禮也、次ヘ立ツヘシ、立チ難キキハ、下座ニ向ヒ、少シ低クカミ置クベシ、

又アクビノビ、ツバキ吐クヲ皆無禮ナリ、

其二

貴人ノ前ニテ、親兄等ノ名ヲ云フ可カラス、只親及ヒ兄トノミ云フヘシ、但シ賞翫ノ時ハ、名ヲ云フモ妨ナシ、

其三

人ノ名乗ヲ呼フ可カラズ、名ヲ呼フハ、人ヲ見下タシタル也、貴人ハ稱号ノミ云フベシ、其家ニ至テハ、官位ノミ云フベシ、

扇ノ扱ヒ

扇ハ四季トモニ持ヘシ、坐敷ニ着シテハ、扇ヲ拔
キ、右ノ膝脇ニ置キ、歸ル片ニ又指スヘシ、凶事ニ
ハ指クル儘ナリ、貴人ノ前ニテハ、扇ハ遣ハヌモ
ノナリ、盛夏ノ時ナトハ、三間開キ、俯キテ、ソヨソ
遣フモヨシ、

障子襖ノ開閉

障子襖ヲ出入スルニハ、左ノ手ヲツキ、右ノ手
ヲ開キ、スリ入リテ、後ヲ閉ツヘシ、貴人ノ坐マス
方ヲ見及ヒ脇目ス可カラス、
貴人ニ途上ニ逢フ

途中、貴人ノ車馬ニ逢ハ、其右ヘヨケテ禮スヘ
シ、途上相遇フ時、貴人老人ニ向ヒ其行先ヲ問フ
ハ無禮ナリ、又貴人ハ我カ右ヲ通スヘシ、同輩ナ
レハ、我カ左ヲ通スヘシ、

道連レ

途上、貴人老人等ト連立ツ片ハ、後ニ付テ行クヘ
シ、少々年輩ノ人ナレハ筋違ニ、同輩ナラハ相並
ヒテ行ヘシ、貴人老人ト夜道ヲ同行シ、從者ナキ
片ハ、氣ヲ付クヘキ所ニテハ、先ニ進テ見届ル心
得アルヘシ

着坐ノ時宜

衆人ト俱ニ着坐ノ時ハ、挨拶シテ後我カ坐スヘキ席ヨリ、少シ引下リテ座スヘシ、中立セハ、我カ下座ノ人ニ色代スツシ、

同

我坐敷ニ居テ、縁ニ居ル人ニ、禮ス可カラス、又盃ヲモ指ス可カラス、縁ハ座敷ノ外ナリ、縁へ出テ挨拶スヘシ、

貴人ノ座ニ入ル

貴人坐ニアリテ召サハ、先ツ縁ニ畏リテ後、坐敷

ニ入ル片、兩手ヲ敷居越ニツキテ入ルヘシ、手ヲ越サスシテ入ルハ、無禮ナリ、

貴人ヲ宅ニ迎フ

貴人ヲ宅ニ迎ルニハ、中門ニ出迎へ、跪テ請シ、後ヨリ入り、貴人縁ニ上ラル、ヲ見テ、次へ立ヘシ、講談席ニ出ル

講席談所等ニ會スル片、己ニ始リタル後、席ニ入ラハ我カ左右計リニ色代スヘシ、講師へ拜禮ハ格別ナリ、

人ノ前ニテ書籍ノ見様

書物ノ口モトヲ、二三枚サラリト見、中程ヲ二三枚見、終リヲ二三枚見テ、差置クヘシ、

懷紙短冊見様

人ノ詩歌ヲ見ルニハ、先戴キテ後被キ見ルヘシ、又自作ノ歌連歌ノ懷紙ヲ人ニ見スルハ、字頭ヲ我方ヘ向クベシ、

立花見様

立花見様ハ、先ツ腰ナル扇ヲ差置キ、床前ニ進ミ、横疊一疊ヲ置キ、兩ノ手ヲツキ、シシ先ニ目ヲ附ケ、次ニ左ノ枝、左ノウケ枝、露モチ、露コボレヲ見

テ、水キハラヲ見ル、稱譽スルニハ、水キハヨリ、シシ左右ノウケ枝ト、次第スルナリ、三瓶ノ立花ハ先ツ中位ヲ見、次ニ左ノ客位ヲ見、右ノ主位ヲ見ルヘシ、

掛物見様

掛物ヲ見ルキハ、床縁ニ手ヲカク可ラス、掛物ノ前ニ生花アラハ、先ツ花ヲ見テ、掛物ヲ見ルヘシ、夜ル掛物ヲ見ルニハ、手燭ノ柄ヲ床ヘ向ケテ持ツヘシ、

香ヲキク

香ヲ利ク時キ、香爐ヲ添タレハ、香爐ニ手ヲカ
サス可カラス、キ、香爐ハ、キ、足トテ足一ツヲ
前ニスル也、人ニ渡ス片ハ、足ヲ向フニスヘシ、
器物ノ見様

人ノ玩物ヲ見ルニハ、指ノ當ル所へ、我手ヲ付ケ
又様ニスヘシ、

取扱ノ部

慰斗鮑及ヒ昆布ノ披露

慰斗鮑ハ、廣キ方ヲ貴人ノ左へ向ケ、昆布ハ打目
ヲ向クヘシ、

肴樽ノ披露

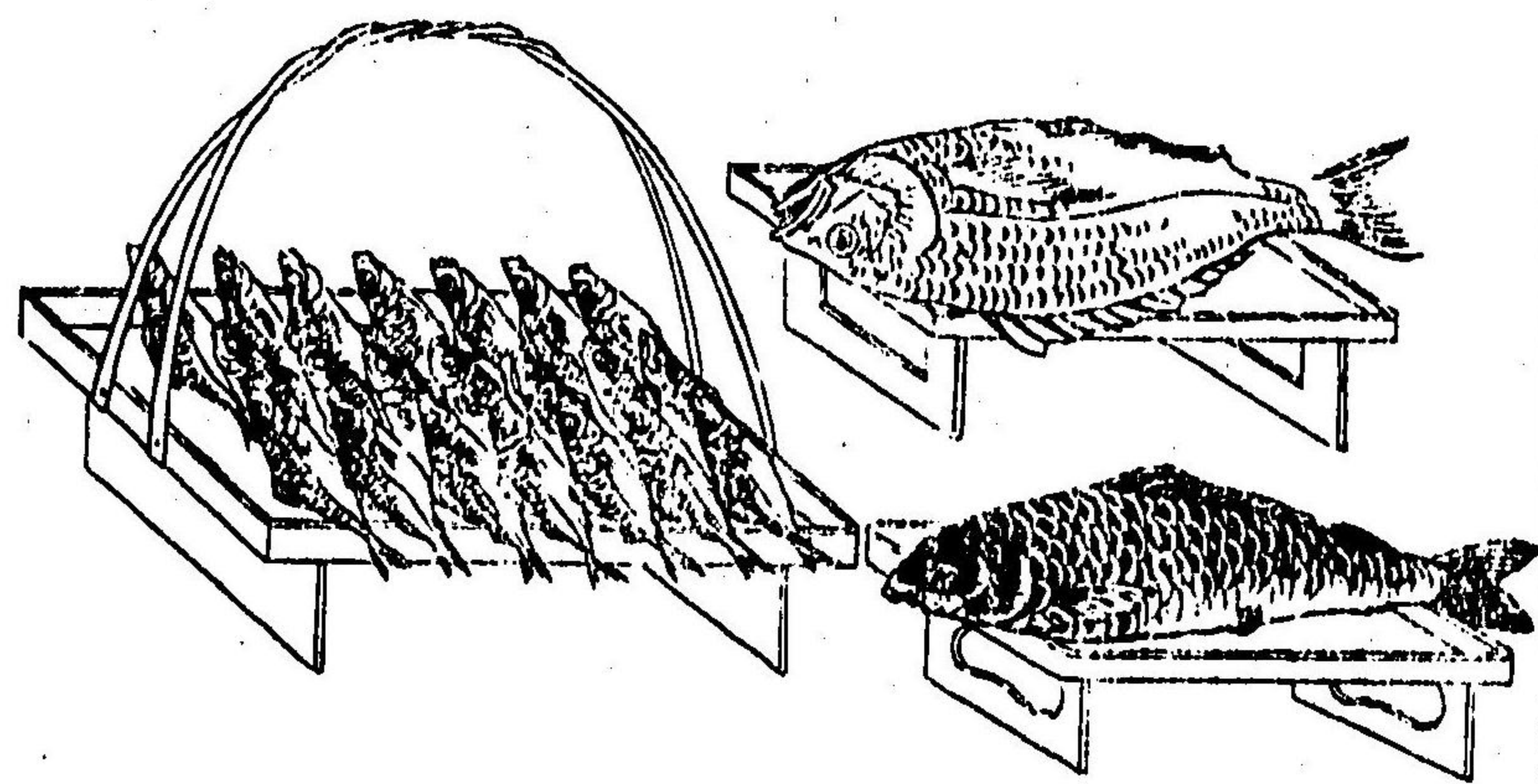
精進肴ヲ上ニ置キ、次ニ鳥、次ニ魚、次ニ樽ヲ置ク
ヘシ、列へ置キテ後、使者ヲ呼入レ披露スヘシ、

樽ノ披露

樽ハ目錄ハカリ披露スル一本式ナリ、略儀ハ樽
ヲモ持出スヘシ、

臺ニ積タル魚鳥ノ披露

臺ニ積ム魚、一ツナレハ臺ヲ横ニシテ、頭ヲ我左
ニナス、海魚ハ腹ヲ向フへ、川魚ハ背ヲ向フニナ
ス、數アルハ我左ヨリ腹ヲ右ニナシテ積出シ、次



ノ行リハ、腹合ニスヘシ、鳥ハ
 腹ノ方ヲ上ニナシ、頭ヲ左リ
 ヘ折曲ルナリ、但シ鶉雲雀等
 ノ小鳥ハ、頭ヲ曲ケサルモノ
 ナリ、又時ニヨリ、積ミ方アリ、
 春夏ハ雄鳥ヨリ、秋冬ハ雌鳥
 ヨリ積ム、披露スルニハ、臺ヲ
 一文字ニ据ユヘシ、
 折ノ物披露
 折ノ物ヲ披露スルハ、貴人ノ

前へ、足ニツアル方ヲ向クヘシ、又山ノ物、田ノ物
 ヲ一度ニ進セハ、山ノ物ヨリ出スヘシ、

茶ノ出シ様

茶ハ、右ノ手ニ臺ヲ持テ、左ノ手ニテ臺ト茶碗ノ
 下ヲ持添へ、臺ノ儘出スヘシ、

硯料紙ヲ進ム

硯料紙ハ、紙ヲ硯箱ノ下ニ重ネ、持出テ、硯ト紙ヲ
 左右ノ手ニ引ワケ、硯ヲ我左ノ方ニ置キ、蓋ヲ取
 リ、水ヲオトシ、墨ヲスリ、筆ヲ少シシメシテ、硯箱
 ノ縁ニカケ、箱ヲ向フヘ廻シ、紙ヲ蓋ニ並へ、押シ

遣ルベシ、

書籍ヲ進ム

書籍ハ字ノ頭ヲ我方ニナシ、左ノ手ニ持、右ヲ添テ出スヘシ、冊數多キハ、一二三ノ順ヲ改メ、持出ツヘシ、

書狀ヲ進ム

書狀ハ、左ノ手ニテ下ノ方ヲ持テ、帶ノ通りヨリ少シ高ク持ヘシ、口上アラハ右ノ手ヲツキ、申スヘシ、下輩ノ人ノ書狀ハ、名ノ所ヲ持ヘシ、書狀箱ニ入レタル狀、封ナキハ取出シ封アルハ其儘差

出スヘシ、

扇ヲ進ム

扇ハ、要ノ所ヲ持テ出スヘシ、

扇ニ載セテ物ヲ進ム

扇ニ載セテ出スモノハ、扇ノ

切目、貴人ヘ向ハヌ様ニ、筋違

ニ要ノ方ヲ右ニ持テ、開キタ

ル方ヲ向フニシ、親骨ノ方ニ、

左ノ手ヲ添テ、出スヘシ、重キ

物ナラハ、左ノ掌ニ、扇ノ紙ノ



所ヲ載セテ持ツヘシ、

小刀ヲ進ム

小刀ハ、柄ノ端ヲ持チ、刃ヲ我方ヘ向ケ、立テ出スヘシ、

樂器ヲ進ム

琴ハ、左ノ手ヲ腹ノ中程ノ下ニ置キ、右ノ手ニテ龍角ノ本ヲ抱ヘ持出シ、彈ク人ノ少シ手前ニテ、下ニ置キ、龍角ノ方ヲ向ケテ出スヘシ、柱ハツセルハ、柱ノ袋ヲ懐中シ、琴ヲ下ニ置キ、袋ノ口ヲ先ヘ向ケ、龍舌ノ方ニ置ヘシ、

同

琵琶ハ、彈ク時ノ如ク抱キテ持出テ、臺ノ方ヲ疊ニ立テ、押廻シテ仰向ケ、海老尾ノ方ヲ彈ク人ノ左ニナシテ、渡スヘシ、

同

笛、尺八ハ、右ノ手ニ持チ、左ノ手ヲ添ヘ、頭ヲ我方ヘ少シ向ケテ、渡スヘシ、笙ハセノノ所ヲ取り、指ヲ竹ノ間ヘ入レ、先ヲ我方ヘ向テ、出スヘシ、

同

大小鼓ハ、調ノ上ニ胴繩ヲカケテ、持出ツヘシ、是

ヲ渡ス片ハ打人ノ持ツ所ヲ上ニナシ、打方ノ革
ヲ先ヘ向ケテ出ス也、

同

太鼓ハ、右ノ手ニ調ヲ提ケ、左ノ手ニ臺ヲ持ヘシ、
人ノ前ニ置ク片ハ、太鼓モ撥モ、我右ノ脇ニ置テ、
先兩手ニテ臺ヲ持チ、打人ノ右ニ置キ、次ニ太鼓
ヲ左ニ置キ、撥ハ右ニ持チ、太鼓ノ左ニ置ヘシ、又
臺ニ楸テ持出ルニハ、打人ノ方ヘ臺ノ爪ニツノ
方ヲ向クヘシ、

盤ノ物ヲ進ム

碁、將碁盤持出ルニハ、明リヲ横ニウケテ、曲マヌ
様ニ、豎ニ置ヘシ、碁器ハ、豎ニ並ヘ置ヘシ、將碁ノ
馬箱モ、盤ノ長ニ置ヘシ、馬立ヨトアラハ、立テ
退クヘシ、貴人ノ相手ナラバ、碁石白黒、其好ミニ
任スヘシ、又差上ルナレハ、白石タルヘシ、將碁ハ
馬箱ヲアケ、見合セテ立ツトシ、貴人ヨリ先ニ立
終ルヲ、無禮ナリ、

同

雙六盤ハ、横ニナシ、盤ノ上ニ石ヲ置キ、石袋ノ口
ヲ先ヘ向テ、持出ヘシ、石ヲ取出シ、其儘置キ、袋ハ

盤ノ脇ニ置ヘシ、

鞆ヲ進ム

鞆ハトリ革ヲ持テ提ケ、腰革ノ疊ニツク程ニ置
キ、ゴヒタヒノ方ヲ先ヘ向クヘシ、

花ヲ進ム

草花ハ、花ヲ下ニナシ、木花ハ、花ヲ上ニナシテ進
ム、又花瓶ト共ニ持出ルハ、花瓶ハ右、花ハ左タル
ヘシ、花ハ瓶ノ左ニ置クヘシ、又立花ヲ神佛ニ供
スルハ、神ハ左、佛ハ右ナリ、

楊枝ヲ進ム

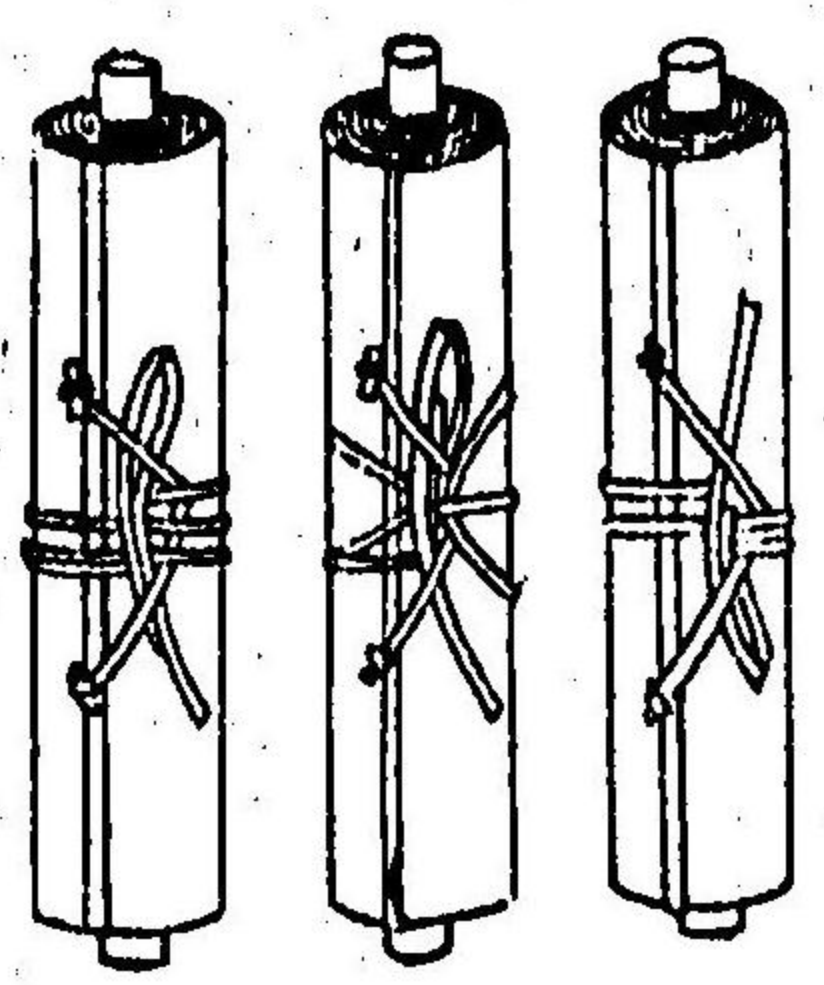
楊枝ハ、先ヲ向フニナシ、扇ニ載セテ出スヘシ、

手水ニ陪ス

手水ハ、拭ケ切ル可カラズ、手ノゴヒハ、扇ニ載セ
テ出スヘシ、

拭物ノ扱ヒ

拭物ヲ拭ルハ、卷緒ヲ解キ、風帶ヲ直シ、箸竹ヘカ
ケ、右ノ手ニ竹ヲ持チ、左ノ手ニ拭物ヲ持テ、釘ニ
カケ、竹ヲ右ノ手ニ持ナカラ、軸ノ左右ニ兩手ヲ
カケテ、オロスヘシ、床ノ上ヘ上ル可ラス、床廣ク
ハ、兩膝ヲ床ニツキテ、カクヘシ、ヒヅミヲ直シ、三



尺程シサリ、手ヲツキ
 見ルヘシ、卷收ル時ハ、
 両手ニテ、三分一程マ
 キ、筭竹ニカケ、オロシ
 テ捲ク也、掛物三幅對
 ナレハ、先ツ中尊ヲカ
 ケ、次ニ左リノ客位、次
 ニ右ノ主位ヲカクヘ
 シ、卷ク時ハ、左中右ト
 次第ニ收ム、對幅ノ收

ノ方ハ各卷緒ノ留メ様ヲ易フ、掛ル時見分ケ易
 キ為メナリ、

屏風ノ扱ヒ

屏風ハ、墨繪ハ上座彩色ハ下ナリ、一雙ナレハ、繪
 ノ書出シヲ上ニスヘシ、書畫ナレハ、書ハ上、繪ハ
 下也、古筆ハ上、新筆ハ下、山ハ上ニ、水ハ下タルヘ
 シ、立テ様ハ、屏風ノ中程ヲ、二ツニ折テ立、左右ヘ
 開クヘシ、

燭臺ノ扱ヒ

燭臺ハ、上座ノ方ヘ寄テ置ヘシ、足一ツヲ貴人ノ

前へ向クヘシ、蠟燭ノ燃先ヲトルハ、數本アレハ、取オロシテ切ル、一本ナレハ、立ナカラ切ルヘシ、蠟燭ヲ換ルニハ、勝手ヨリ手燭ニトモシ、持出ツヘシ、火鉢等坐敷ニ置クモ、燭臺ニ同シ、

貴人ニ言語ヲ交ユ

坐ノ左ニ寄テ申スヘシ、總テ人ト物語リスルニハ、近ク寄レハ、口氣及ヒテ無禮ナリ、少シ面ヲフリテ言フカ、又ハ口ニ手ヲ蔽ヒテ言フベシ、

陪坐ノ心掛

人ニ陪座スルニ、心掛クヘキヲ、四アリ、拭ケ物ノ

エガミヲ直ス、¹、部ノ拭ケ鉢ヲ直ス、¹、蠟燭ノシ、¹、取ル、何ニヨラス、危険ナル品ヲ置キ直ス

代焼香

目上ノ人ニ代リ、焼香スルハ、左手ニテ香ヲタキ、少シ脇ヘ寄り、拜禮スヘシ、真向ニハ拜ス可カラス、

盲人ヲ相ク

盲人ヲ席ニ導クハ、ソト右ノ袖口ノ上ヲ取テ引ヘシ、坐ニ着カハ、其席ノ客ニ三人ヲ引合スヘシ、

饗膳ノ部

客ヲ招ク心得

客ヲ招ク人ハ掃除第一ナリ、床飾リノ掛物生花等、念入ルヘシ、四クワト云フコトアリ、春花夏瓜秋菓冬火ハ、四季ノ饗禮ナリ、客來レバ、饗膳ヲ出スノ遅キト、其坐ニ着クヲ見テ直ニ出スモ、宜カラス、茶杯出シ、暫ク見合セテ出スヲ宜トス、

吸物及ヒ取肴出シ様

吸物ヲ出サハ、直ニ盃ヲ出スベシ、肴ハ、一人飲ムヲ見テ、出スガヨシ、客モシ歸ルベキ体アリテ、未

タ吸物モ出來合ザル時ハ、先ツ盃ヲ出シ置ヘシ、左モナキニ、盃バカリサキヘ出スハ、宜シカラス、又取肴トイフハ、何ニテモ取アヘズ、足打三方、カナカケ杯ニ盛リテ出スヲ云フ、足打三方ニハ、オシ込カウ立アルベシ、アトヨリ段々肴數多ク出タサバ、前ニ出シタル肴ハ、引入ルベシ、廣キ座敷ナラバ、七八種迄ハ、苦シカラス、

盃ノ出シ様

盃ヲ出スニ、客主人ト同輩ナレハ、正中ニ置キ、客上輩ナレハ、客ノ左ヘ寄セテ置ヘシ、酌取り銚子

ヲ持參シ盃ノ側ニ跪キ、左リノ手ニ盃臺ヲ持チ、
右ノ手ニ鉋子ヲ持チ、三足ハカリ後ハ、ヒサリテ、
跪クハ、シ、客挨拶アリテ、盃ヲ始ムヘキ人定ラバ、
其人ノ側ヘ持參スヘシ、酌取ベキヤウハ、左ノ膝
ヲツキ、右ノヒザヲ少シ立テ、ツグヘシ、

持參ノ酒

客持參ノ酒ハ、初獻ハ主人酌ニ立チ、先ツ客ニ飲
マスヘシ、我ヨリ飲初ル、無禮ナリ、モシ客早ク
酌セハ、格別ノ事ナリ、

肴据ヘ様

貴人ニ肴ヲ据ルハ、其右ノ方ニ置キ、前ノ膳ヲ取
リ除ケテ据ヘ、前ノ膳ヲ揚ケテ立ヘシ同輩ニ肴
据ルハ、下ニ置カスシテ左手ニ持チ、右手ニテ前
ノ膳ヲ取り除ケ、兩手ニテ肴ヲ据ルナリ、下輩ニ
ハ、前ノ膳ヲ片手ニテ取り、肴ヲモ片手ニテ据ル
ナリ、

臺ノ物及ヒ押ヘヲ出ス

臺ハ、祝儀ニハ、客ノ數ホド出スナリ、臺ノ中、蓬萊
ヲ上客ヘ出シ、夫ヨリダン、盃ヲマ、ハシ、後ヨ
リ、出スベシ、押ヘトイフハ、肴ヲ盛りタルヲ云、是

ニハ箸ヲオクヘシ、臺ハ土器バカリニテ、箸ヲオ
カズ、臺一ツニ押ヘ一ツ、添フヘシ、輕キ祝儀ニ
ハ、臺ニ盃肴著トモニ置キ、押ヘヲ畧スル事モア
リ、分限ニヨルベシ、

折及ヒ取スエ、冷シ物ヲ出ス

折ハ、肴ヲ出ス時ハ、五寸、七寸、一種盛ナリ、取スエ
ハ、三方足打ニ土居ヲスエ、其上ニ土器ヲ置キ、種
々盛込ムナリ、折ノトヂノハ、我方ニ向クベシ、箸
ノ太キ方ハ、我左ニスヘシ、三ツ取スエ、五ツ取ス
エ、一ツ取スエ迄アルベシ、トヤシ物ハ、錫ノ鉢ニ

テ出スベシ、茶碗ノ物ト云ハ、煮冷シノ類ヲ云ナ
リ、

當座ノ臺ヲ出ス

當座ノ臺ハ、松ニテモ、梅ニテモ、三方ニ立テ取肴
ヲ盛出スヲ云、上坐ニナスベキ方ヘ、寄セテ立ベ
シ、

菓子ヲ出ス

菓子ハ、膳ヲ下ケテ後、銘々ハ出ス、是ヲ惣菓子ト
云フ、

通ヒノ者心得

通ヒニ出ル人ハ、腰ヲ居ヘ、腹ヲ張テ、膝頭ノ屈マ
ヌ様ニ、身ヲ固メ、踵ヲ疊ニ付ケ、スラ、ト遲速
ナク、通フヘシ、用意ニ疊紙ハ必ス懐中スヘシ、入
用ノ事多シ、扇ハ腰ニスヘシ、

手長ノ心得

手長ハ、膳夫ヨリ取次テ、通ノ者ヘ渡ス役ナリ、膳
ノ持チヤウ、我居ル勝手ニ持チ、通ヘ渡ス也、廣キ
家ニハ、手長幾人モアリテ、取次々々スルナリ、

多客ノ席通ヒノ心得

先通ヒノ人數ヲ定メ、誰々ハ右組、誰々ハ左組、誰

々ハ向組ト定メ、左リヲ勤ル人ハ、右モ向モカマ
ハズ、我受持シ方計、大事ニ勤ムヘシ、カクノコト
クスレバ、引違取違ヘ間ヌケ等ノ誤リナシ、之ヲ
通ヒノ三手作トイフ、

同

通ヒノ者、行違フ時、手アキノ者、傍ヘヨリテ跪ヒ、
物持チタルヲ通スヘシ、狭キ座敷ニテハ、殊ニ此
心得アルヘシ、

酌ノ差別

上輩ノ盃ハ、銚子ヨリ上ケテ持チ、次ハ銚子ト等



ク其次ハ、銚子ヨリ低ク
持ツベシ、

三獻ノ酌

初メツギテ、又一獻ソト
ツギ、後ヘヒラキ座ス、此
時肴アリ、又出デ、一獻

ツグナリ、

セコニ入り様

酒モリノ時、上座ハ賑シク盃メダレ氏、下座ハシ
ヅマリテサビシキ時、上座ヨリセコヲ入レヨト

指圖アラハ、其セコハ酌ノ役ナリ、上座ニ在ル者
ヲ持テ、盃ヲ掌ニ居ヘ、下座ヘ酒ヲ勸ルナリ、セコ
役ハ先ツ我飲テ、サスベシ

盃ノ元ヲ隔ツ

盃ノ元ヲ隔ツトイフハ、盃指シタル人ト、飲ム人
ノ間ニ、酌人ノ居ル事ナリ、コレ酌人第一ノ不禮
ナリ、左カ右ニ寄ルベシ、

膳持チ様

配膳持チ様ハ、膳ノ中程ヨリ少シ前ヲ持チ右手
ヲ縁ヘソトカケ、我カ口氣ノカ、ラ又程ニ、差上

ケテ持ヘシ、

膳ノ据ヘ様

膳ハ据ナカラ、左ノ膝ヲツキ、右ノ膝ヲ立テ、据ルナリ、又兩膝ヲツクモヨシ、少シ間ヲアケテ据ヘ、押出シテ、椀ノ蓋ヲ取り、客ノ左ニ置ヘシ、二ノ膳ハ客ノ右、三ノ膳ハ左ニ据ルナリ、又吸物膳ト引カヘルハ、持出シタル膳ヲ置キ、前ノ膳ヲ取除ケ、据換ルナリ、膳ノ下ケ様ハ、三二一ト下ルナリ、貴人兩人アレハ、通ヒ兩人ニテ同時ニ膳ヲ持ハコブベシ、膳ハ進ルヲ上ルト云ヒ、撤スルヲ下ル

ト云フ、菜引ハ菜クバリト云フ、

飯ノ繼キ様

飯ヲツグニ、夏ハ飯器ノ蓋ヲ取り、足打ノ傍ニ置

キ、持出ツヘシ、冬ハ持出テ、蓋ヲ取ヘシ、左ノ手ヲ仰向テ出ス時、客人飯椀ヲ出ス、通ノ者椀底ヲ持チ、右ノ手ニ、テ杓子ヲ取り、飯ノ中ヲ左右ヘ少シワケ、真中ヲニスクヒツギテ、其儘差出ス



へし、

汁ノ替様

汁ハ、客残ラス飯ヲカヘタル後、盆ニテカヘル也、カヘタル汁ニハ、勝手ニテ別ノ蓋ヲシテ持出テ、右ノ手ニテ蓋ヲ取り、盆ノ傍ニ置キ、両手ニテ出スヘシ、

同

冷汁ハ、ヒサゲニツギテ、左ノ手ニ箸ヲ持チ、ツグトキ、右ノ大ユビニ、箸ヲ持ッヘルナリ、引キ物ノ取分ケ様

引物ハ、客ヨリ、椀ノ蓋ヲ出サハ、両手ニテ請取り、盛リテ両手ニテ出スヘシ、

食籠ノ出シ様

食籠ハ、臺ニ載セス、持出ルナリ、箸ヲ紙ニ包ミ、食籠ノ上ニ置キ、持出テ、箸包ヲ取り、箸ヲ抜き、右ノ手ニ持チ、食籠ノ蓋ヲ明ケ、箸ヲ中ヘ入レ、紙包ヲ持テ立ヘシ、

取持人ノ心得

酌ニ限ラズ、凡テ座敷ヲ取持ツ人ハ、座ノ序破急ト云フヲ知ルヘシ、始メモノシツカニ取扱フハ、

序ナリ、中程クツロギタルハ破ナリ、終リニ強ウ
ルハ急ナリ、序ノ坐ニ、亂酒ノ体ヲナシ、又急ノ座
ニ、ナガ、シキ謠、ネバキ酒振アルハ、嫌フナ
リ、

飲食ノ部

客ノ心得

饗應ニ招カル、人ハ早キモ遅キモ宜シカラス、
刻限通り行ヘシ、庭ニ入ラハ、掃除等ニ氣ヲ附ケ、
座ニ着ケハ、床飾リ等一見シ、主人ニ挨拶アルヘ
シ、饗膳ノ料理等、褒過ルモ氣ナシニ食スルモ、宜

カラス、主人ノ氣ヲ付タル体ノ物ニ、挨拶スル
肝要ナリ、

相伴ノ心得

相伴ニ招カル、者ハ、客ヨリ先ニ行ヘシ、客ヲ待
タスルハ無禮也、如何程珍羞ヲ饗セラル、氏主
人ハ對シ、辭退杯不可カラス、又詞ナキモ、相伴ノ
詮ナシ、客ハ饗應丁寧ノ趣キヲ述フベシ、又相伴
人ノ心得アリ、客ニ用事アル人來ラハ、次席へ避
クヘシ、客書状ヲ書キ、或ハ披見アラハ、避ケテ目
ノ届カヌ所ニ在ルカ、次へ立ヘシ、又貴人老人ノ

年ヲ問フ可カラス、犬猫杯呵ル可カラス、總テ席上、氣ヲ付テ、風荒クハ障子ヲ立テ、塵アラハ捨ル等、皆相伴人ノ心付キアルヘシ、

茶飲ミ様

茶碗ハ、臺ト共ニ取り、臺ヲ下ニオキ、茶碗ハカリ取アケテ、飲ムヘシ、

薄茶点_テ出サバ、ニジリ寄りテ、茶碗ヲ手ニ取り、戴キテ飲ムヘシ、茶碗ヲフリ廻スハ惡シ、点_{タル}泡ノ付タルハ、フリテ落ス、茶ノ残ラヌ様ニ飲ミキリ、初メ主人ノ出セシ所へ、茶碗ヲ差シ置ヘシ、

主人取テ湯ヲクミ、水コボシ、明ケル時、茶望ミナクハ、御仕舞アレト挨拶スヘシ、尤モ相客アラハ、飲マサル前ニ、挨拶スヘシ、又点_{出シ}ノ茶トテ、振舞ノ膳後ニ茶ヲ点テ、帛ヲ折テ茶碗ノ下ニ敷キ、掌ニ載セテ持出テハ、帛ト共ニ取テ飲終リ、我前ニ茶碗ヲ置キ、右ノ方ニ帛ヲ置キ、合セテ通ヒノ來ル時、茶碗ヲ差出シ、帛ヲ通ヒノ右ノ方へ又置合セテ、戻スナリ、

盃ノ獻酬

盃ヲ指スハ、飲ホシテ、アトヲ少シ殘シ、フリ流シ

テ存リノ掌ニ据ヘ、右ノ手ニテ、右マハシニ少シ
廻シ、ソト戴キテ、臺ニ据テサスバシ、臺ヨリ下ニ
置マジキナリ ○戴キヤウハ、右ノ手ニ盃、左ノ手
ニ臺ヲ持チ、中ニテ左右ヘヒキワケ、臺ヲ左リニ
置、盃ヲ左リノ掌ニスヘテ、右ノ手ヲ盃ノ縁ヘ添
ヘ、戴クベシ、

貴人ノ盃

貴人ノ盃ヲ受ルハ、左手ヲ出シ、右手ヲ添ヘ、盃ヲ
受取り、指上ケテ、酒ヲ受ケ、俯シテ飲ヘシ、肴ヲ賜
ハリ、二獻ノ片ハ、盃ヲ下ケテ受クヘシ、又貴人ノ

前ヘ出テ、盃ヲ賜フ片ハ、タゞ飲ヘシ、我盃ヲ貴人
名サル、時禮ヲスバシ、

戴カヌ盃

貴人ノ前ニテハ、同輩ノ盃ハ戴カヌモノナリ、モ
シ肴アラハ、貴人ノ方ニ向ヒテ、戴クヘシ、親兄弟
ノ盃、他人ノ前ニテハ、戴カヌモノナリ、

盃酒受取り様

酒ヲ受ルキ、盃ハ高ク上ケヌモノナリ、貴人ノ前
ニテ、酒ヲ受ルキ、下戸ナレハ、ソト酌人ノ面ヲ見
ルヘシ、是下戸ナリト知ラスル為ナリ、酌人モ亦



其心得アルヘシ、
 貴人肴ヲ賜フ
 貴人肴ヲ賜ハ、盃ヲ下ニ置
 キ、進ミ出テ、左手ヲ上ニ、右手
 ヲ下ニ重ネ、両手ヲ出シ、手ノ
 窪ニ受ケ、右手ヲツキ、一シサ
 リシテ、又両手ヲ重ネ、戴キテ
 食シ、或ハ食スル体ニシテ、懐
 中シテ退クヘシ、又亂酒ノ節
 ハ、右ヨリ賜ハ、右手ヲ出シ、

左ヨリ賜ハ、左手ヲ出スヘシ、其時片手ハ必ス
 添ヘ、重ネテ出スナリ、ケ様ノ節、公、貴人座ニ復ラ
 ル、ヲ見テ、戴キテ食スヘシ、又同輩ノ肴ナレハ、
 片手ニテ掌ニ受ケ、戴キテ食スヘシ、下輩ナレハ、
 ツマミテモ食スヘシ、總テ肴ヲ賜フハ、今一盃飲
 マスル爲ナリト心得ヘシ、

返盃

我盃ヲ貴人ヘ進ルニハ、能シタミテ、酌人ヘ向ケ、
 疊ノ上ニ置ヘシ、酌人、臺ニ載セテ差上ルナリ、其
 次ハ、盃ヲ戴キ、酌人ヘ出スヘシ、同輩ナレハ臺ニ

載セテ、酌人ニ出スヘシ、返盃ニ限ラス 貴人ハ肴
ハ進メヌモノ也、老人ナレハ肴差上ケテモヨシ、
貴人ノ酌飲ミ様

貴人ノ酌ニテ酒飲マハ、側ヘハヒヨリ、盃持タル
兩手ヲ下ケ、酒ヲ受ケ戴キ、兩肱ヲ疊ニ付ケテ飲
ヘシ、其盃ヲ持テ退ントスル時、返盃スヘシトア
ラハ、盃ヲフリ、露ヲ落シテ、戴カズシテ貴人ノ前
ニ置テ、立ヘシ、肴賜ハハ、懷中シ、今一盃飲テ立ッ
ヘシ、

中飲ノ仕様

中飲ミハ、俗ニ云フアイノ事也、中飲ミノ仕ヤウ
ハ、指ス人モ下モフラズ、飲ム人モ戴カズ、又下ヲ
モフラズシテ、獻酬スベシ、貴人ノアイヲ致ス片
ハ戴キ下ヲフル事、常ノゴトクスベシ、中飲スル
片、側ヨリ差出テ、肴ヲハサミタル人アラハ、罪落
トテ其人ニ三盃飲マス事ナリ、

遊興ノ酒

勸進能見物ノ時、酒飲マハ成丈ケ他ヘ見エヌ様
ニスヘシ、花見ニハ其花ヲ一フサ、盃ニ入レテ指
スヘシ、飲ム人、花ヲ取テ、扇ノ上ニ置キ、飲テ後、又

其花ヲ盃ニ入レテ、人ニ指スヘシ、

吸物食シ様

鉋子出テタルヲ見テ、先ツ箸ヲ取り、吸物ハ箸持
ナガラ取上ケ、左手ニ渡シ、先ツ實ヲ食シテ、汁ヲ
吸バシ、

膳ニ向フ心得

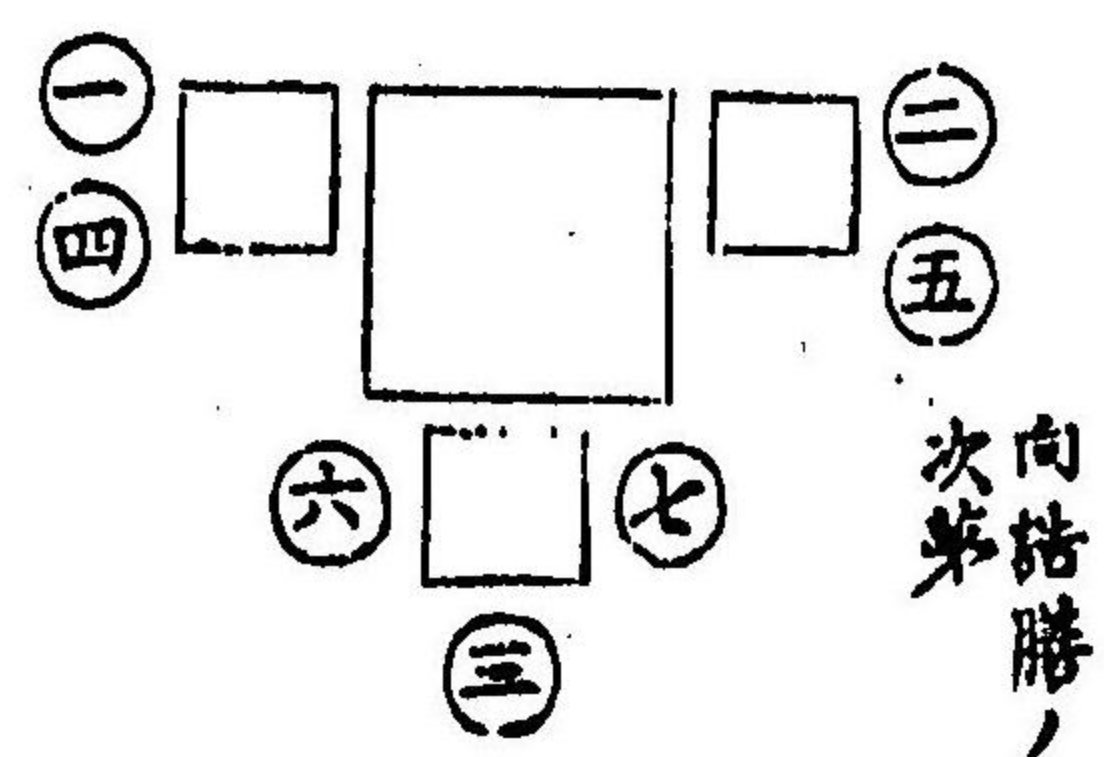
膳ヲ据ルキ、貴人ハ手ヲ添ルナシ、末座ノ人ハ、
膳ニ手ヲ添テ、据サスヘシ、又肴ヲ据ルキモ、貴人
ハ其儘ナリ、末座ハ、肴ヲ前へ持來ルキ、前ノ肴ヲ
持上ケテ、今ノ肴ヲ据サセ、前ノ肴ヲ配膳ニ渡ス



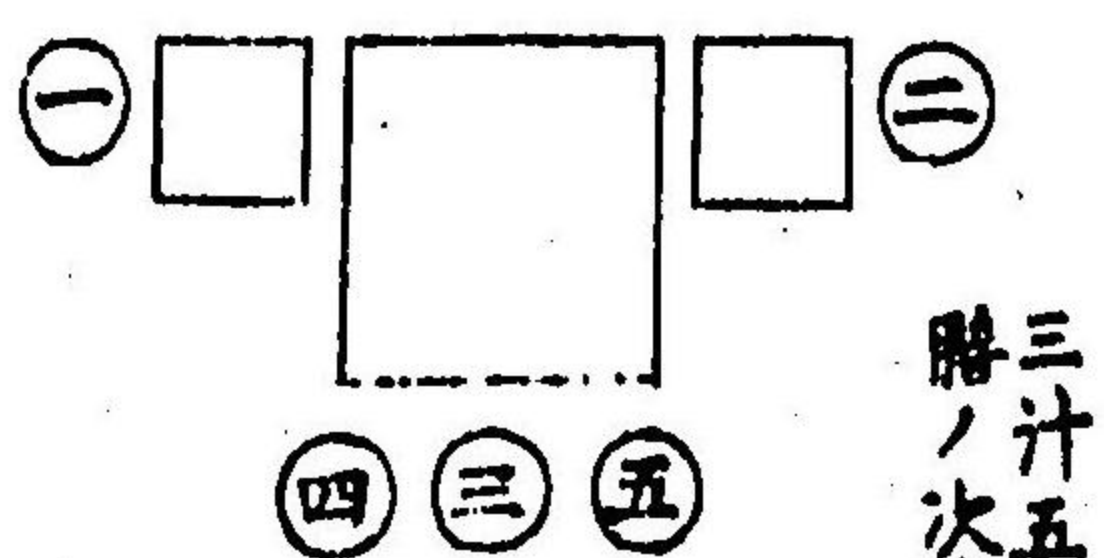
小者禮式

ハシ膳ヲ下ケル時ハ、貴人同
様ニ、一膳ツ、下ケサスルハ、
無禮也、本膳ニ、膳へ、何品モ
載セ、膳ヲ持上ケ渡スヘシ、末
々ノ座ハ、本膳ヲ左ニ、二ノ膳
ヲ右ニ、兩手ニ持テ、本膳ノ上
ニ、二ノ膳ヲカサヌル心得ニ
テ、持テ立バシ、本膳ハカリニ
テモ、此心得ニテ持テ立バシ、
食事ノ次第

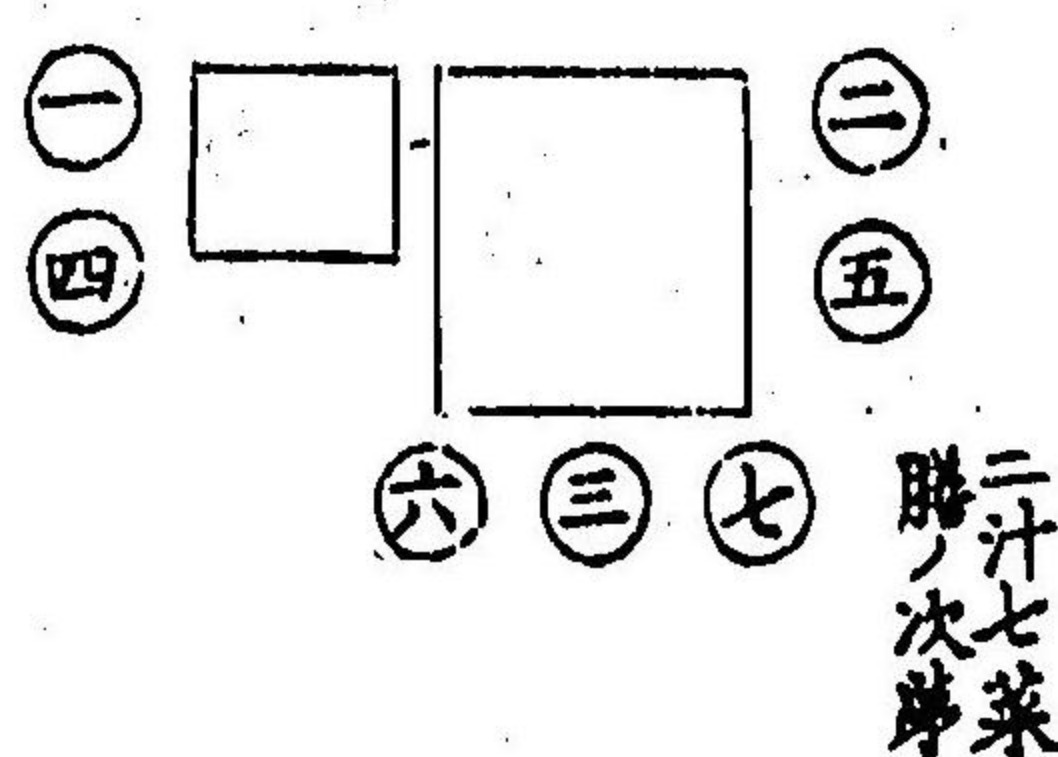
食スル始メ、先ツ右ノ手ニテ、飯椀ノ蓋ヲ取り、左ノ手ハ移シ、膳ノ左リノ方ニ置キ、汁椀ノ蓋ヲ取り、前ニ箸ヲ取上ゲ、直ニ持チ、其手ニテ飯椀ヲ取上ケ、左リノ手ハ移シ、二箸飯ヲ食シテ、下ニ置キ、又右ノ手ニテ、汁椀ヲ取アゲ、是ヲ左リハ移シ、汁ヲ吸ヒ、右ノ手ニ取テ下ニ置キ、又右ノ手ニテ飯膳ニ付タル菜ヲ食フベシ、貴人ノ前ニテハ、箸ヲ短カク持ベシ、飯中ニ盃出テハ、箸ヲ飯椀ト汁椀トノ間ニ筋違ニ膳ノ縁ヘカケテ置ベシ、食シ終



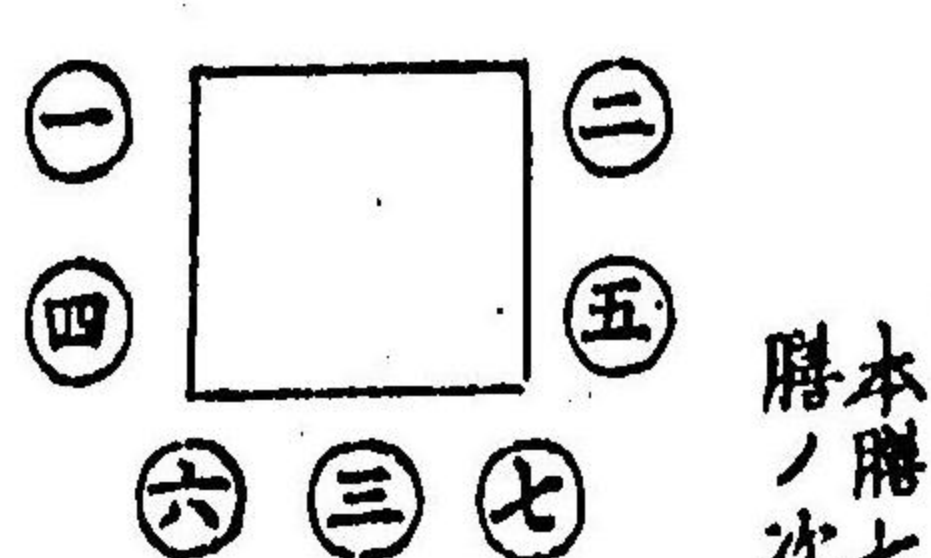
向結膳ノ次第



三汁五菜膳ノ次第



二汁七菜膳ノ次第



本膳七菜膳ノ次第

ラハ初ノ如ク横ニ置バシ、本膳ヲ食シテ、次ニ二三ノ膳ヲ食スヘシ、二ノ膳ノ菜小汁ハ、箸ヲ取直シ、右ノ手ニ取り、左ノ手ニ渡シテ食スヘシ、三ノ膳ノ菜小汁ハ、左ノ手ニ取りテ食スヘシ、器物ヲ膳ニ置

クキモ二ノ膳ハ右手ニテ置キ、三ノ膳ハ左手ニ
テ置ヘシ、又手遠ナル物ナドハ、アマリ食セヌカ
ヨシ、然シ主人ノ用意アリシト見ユル物ハ、能キ
程ニ食スヘシ、鯉ナド、賞玩ノ物モ、能キ程ニ食ス
ヘシ

再進ノ受ケ様

再進ヲ受ルニハ、飯ニテモ、汁ニテモ、配膳ノ人ニ
挨拶スルニハ、片膝立テ、請テノチ、膝ヲ組ムヘシ、
汁ノ替ヘ様

汁ハ、本汁ヲカヘタル後ニテ、二ノ汁ヲ食ベシ、二

ノ汁ナキ時ハ、汁カヘタル間ハ、飯ハ食ハヌモノ
ナリ、箸ヲカマヘテキツト待キタルモ、見グルシ
ソレヲ添テクフ様目
立サル様アルベシ

飯ニ汁ノカケ様

飯ニ汁カケルハ、食シ終リニ、本汁ヲカクベシ、二
三ノ汁、スマシナラハ、其椀中ノ汚レタルヲカク
ヘシ、

貴人自ラ引物ノ時受ケ様

貴人自ラ引物アラバ、器ノ蓋ヲ持テ、座ヲ立テ、貴
人ニ渡スベカラズ、蓋ヲ持ナガラ受テ戴キ、座ハ

返ベシ又汁ノタラヌ焼鳥ノ類ナラバ、スリ出テ
手ニ受クベシ、

串物食シ様

串ニ指タル物ハ、串ヲヌキ、手ニテツマミ食ヘシ、
食事ノ心得

是ヲヤ食シ、彼ヲヤ食ント見マハスハ見苦シ、是
ヲ箸ナマリト云テ嫌フナリ、菜ハ一種ツ、喰フ
ヘキヲ、是物ヲ食フテ直ニ彼物ヘ移ルヲ移リ箸
ト云フ、箸ニ付タル飯粒ヲ、トモ箸ニテオトス可
カラス、是ヲニキリコ箸ト云フ、箸ニ付タル飯粒

ヲ、口ニテ取ヘカラス、是ヲモギクヒト云フ、箸ヲ
深クネブルヲ嫌フ、是ヲネズリ箸ト云フ、口中ヘ
箸ニテ押し込ムハ、見苦シ、コシ箸ト云フ、煮物汁
ノ實ナト、下ニ在ル物ヲコヂ起シテ、食フベカラ
スコヂ箸ト云フ、何ゾ下ニ在ヤト探リミルハイ
ヤシ、サグリ箸ト云フ、香ノ物ニテ、湯茶ノ中ヲ廻
スベカラズ、廻シ箸ト云フ、食ントシテ箸ヲ着ケ、
食ハスシテ引ヲ、ソラ箸ト云フ、汁ノ再進ヲ、通ヒ
ヨリ取テ、膳ニ置カス、直ニ吸フベカラズ、ウケ吸
ト云フ、飯ヲ箸ニテ椀ノ中ヘ押しカタメテ、食フ

ベカラス、マダモリト云フ、膳ノ向フニ在ル物ヲ、
手ニ取上モセズ、箸ニテ直クニ食フベカラス、膳
ゴシト云フ、ウツムキテ挨拶モセズ、食ヒ入テ居
ルハ、ミグルシ、犬喰ト云フ、是等ハ飲食スル時慎
ムヘキ也、犯スベカラス、其外焼物ノ串ウチタ
ルハ、串ヲ持チ箸ニテハサミ食フヘシ、尾首アル
焼物、表計リ食テ、裏ヲカヘス事アルヘカラス、香
ノ物ハ飯ノ菜ニハアラズ、湯ノ菜ニ食フベシ、又
鱈ノ酢ヲ吸ヒ、鱈ノケンヲ食シ、焼キ物ノムシリ
ニクキ物ナド、ムシリ兼子タルハ、見苦シ、

湯漬食之様

湯漬ハ洗ヒ飯ニシテ、椀ニ盛テ出スユヘ、箸ニテ
少シ中ヲ崩シテ、湯ヲ七分ニ受ベシ、菜ハ香ノ物
ヨリ喰初ノハ、箸ノ汚レサルモノヲ喰フベシ、汁
ハ吸ハズ、實ハカリヲ食ヒ、再進ス可カラス、湯漬
ノ後ノ湯ハ、箸ヲソヘズ、湯ハカリウケテ飲ミ、香
ノ物モ喰フ可カラス、

赤飯食様

赤飯ハ、箸ニテスクヒ、左ノ手ニ入レテ食ヘシ、右
ノ手ニ箸ヲ持チ、組タル物ヲ喰フベシ、

破籠ノ食シ様

破籠ノ食ハ、底ヲアラハス程ニ、食フ可カラス、

切麥等食シ様

切麥、温鈍、素麵等、食ヒ終リタラハ、汁ヲ皿ニアケテ置クヘシ、

餅ノ食シ様

餅ハ、手ニテ二ニ割り、右ニ持タルヲ置キ、左ニ持タルヨリ食フヘシ、食シタル跡ノ一文字ニナル様ニ、二口ツ、喰ヘシ、箸ニテ食フ餅モ、同様ナリ
饅頭食シ様

饅頭ハ、二ニ半分ホド割り、押ツケテ粉ノ散ラヌ様ニシテ、割切ルヘシ、

佛事ノ點心

佛事ノ點心ニ一羹一麵ト云フハ、先ッ湯ヲ出シ、次に茶ヲ出シ、雲羹カ羊羹饅頭カ蒸麥カノ内ヲ一種出スヲ云、湯トハ、米粉胡椒陳皮桂心各等ヲ細末シテ、薄茶一プク程ニ天目ニ入レ、後ヨリ湯ヲ出シテ、ツキ込ムナリ、二羹二麵ハ、湯茶羊羹鼈羹蒸麥温鈍ナリ、三羹三麵ハ、湯茶雲羹羊羹鼈羹蒸麥温鈍饅頭ナリ、

瓜ノ食シ様

瓜ハ茶碗ニ入レ、楊枝ヲ添ヘテ出スヘシ、左手ニ
テ瓜ヲツマミ、楊枝ニテ核ヲオトシテ喰フヘシ、
貴人ムキテ賜フハ、核ヲオトサス、残ラス喰フヘ
シ、瓜ハ初物ナレハ、豎ニ二ニ割リテ横ニ切ル、其
後ニ丸輪ニ切ルヘシ、

熟柿ノ食シ様

熟柿ハ、核ノ口ニ入ラヌ様ニス、ルバシ、核、口ニ
入リタラハ、左ノ掌ニ受クヘシ

柑子ノ食シ様

菓子ノ中ニ柑子アラバ先ニ食フヘシ、四割リ三
割ニシテ食フヘシ

西洋料理立食ノ大略

食堂ニ進ミ、食卓ニ就クノ前ハ衣服ヲ改ムルヲ
緊要トス、西洋服ナラハ必ス上着ヲ着クヘシ、日
本服ニテモ羽織袴ヲ用ウヘシ、極メテ略ト雖、
羽織或ハ袴ノ内ヲ用ウ、手ヲ汚シ、髪ヲ亂スノ如
キハ最モ主人或ハ衆客ニ不敬ナレハナリ、食卓
ニ就クモ静ニシ、決シテ急キ食スヘカラス、食物
ヲ嚙ミナガラ、口ヲ開ク等ノアナルヘカラス、食

スル片口或ハ喉、器物等ヲ鳴スヘカラス、食物ノ
口中ニアル片慎ミテ談話スヘカラス、椅子ニ據
リ食卓ニ憑レ或ハ食卓ヲ穢ス等アルヘカラス、
食卓上ノ菓物ヲ他所ニ持去ルヘカラス、食事シ
ナカラ犬猫等ニ戯ルベカラス、食ベナガラ口中
ニ指ヲ入レ或ハ齒ナドヲ刺スヘカラス、麵包ハ
手ニテ裂キ其截口ニ牛乳油ヲ着ケテ食フヘシ、
決シテ庖刀ニテ截ルベカラス、自分ヨリ懇望ス
ル品ハ辭ニ給仕人ヲ呼ヒ言附クヘシ、必ス自ラ
手ヲ伸バシ或ハ吾椅子ヲ去ルナカレ、麵包或ハ

菓物ニテモ一ツハ殘シ置クヘシ、殘リシ一ツヲ
取り食フベカラス、食事中慎ミテ牛乳油或ハ肉
漿ニテ指背ヲ汚スヘカラス、若シ誤リテ汚スル
口ニテ舐リ或ハ食卓ノ氈等ニテ拭フベカラス、
魚ノ如キ軟カナル物ハ三股ニテ食フベシ、庖刀
ヲ用ウヘカラス、指ニ腫物等ノ見苦キコトアルニ
アラサレハ手袋ヲ嵌メナガラ食ニ就クベカラ
ズ、皿ヲ返シテ他ノ事ニ用ウル等ノコトアルベカ
ラズ、食卓上ニ自分ノ好マザル品アルル口ニ出
シ顔ニ見ハサバルハ勿論ノコト、他所ニテノ話ヲ

學海雜錄
モ爲スベカラズ、食物ノ中ヨリ蟲或ハ髮ノ毛ナ
ト出ル片ハ取リテ竊カニ皿ノ縁ニ置キ取テ口
外スベカラズ、殘骨ヲ舐リ、殘漿ヲ啜ル等甚々然
ルベカラズ、食事中恣ニ起坐スベカラズ、一品ノ
ミヲ多ク貪ルベカラズ、食事中熱心ニ談話シ庖
刀三股等ヲ弄フベカラズ、自分ニ薦メラレタル
食物ヲ人ニ讓ルヘカラズ、縱令食卓ノ下ナリト
雖氏恣ニ足ヲ伸スベカラズ、對食スル人ノ脚ニ
觸ル、ノ恐アリ、品毎ニ稱譽スベカラズ、又過度
ニ渉ルベカラズ、湯滌タル玉蜀黍ハ横嚙リヲ可

シトス庖刀ヲ用キザルモ可ナリ、食事中咳嚏ナ
トヲ慎ムヘシ、已ヲ得サレハ黙シテ別席ニ避ク
ベシ、若シ暇ナキ片ハ手ニテ口ヲ蔽フ等心得ア
ルベシ、食事中已ムヲ得ザル事故等出來シテ其
席ヲ去ル片ハ、公然之ヲ衆ニ告グベカラズ、但シ
竊カニ隣席ノ人ニ話シ置キ後チ傳言ヲ托スル
モ可シ、慎ミテ汚穢キタナキ話ヲスベカラズ、食堂ニ在
リテハ滑稽輕口ナドスヘカラズ、最モ理窟メキ
タル話モ甚々厭ベシ、
小學諸禮式終

此書ハ室町足利氏ノ時ニ定メタル武家殿中ノ儀式ヲ誌セル世ニ謂フ所ノ小笠原流仕附ケ方ノ書禮方書冊三小笠原小記録冊五諸禮集冊二祝之書冊一座右抄冊一古實諸禮鈔冊二進退記冊七西洋交際雜誌等ヨリ手近ク兒童ノ座起周旋ノ仕附ケニモナルヘキト思フ箇條ヲ採萃シ立禮式ヲ書添ヘ一冊子トナセシモノナリ

明治十四年十二月 近藤瓶城誌

明治十五年三月十四日板權免許
 今 年 四 月 出 版

定價金二十錢

編纂人

東京府平民

近藤瓶城

東京深川區富岡門前町

大分縣士族

中島精一

東京芝區三田四國町
 三番地

發兌書肆

中近堂

東京通三丁目

同 芝三島町

同 通油町

同 本町三丁目

同 兩國横山町

大坂備後町

同 北久寶寺町

同 北久太郎町

名古屋本町

同所

丸屋善七

山中市兵衛

水野慶次郎

金港堂

出雲寺萬次郎

梅原龜七

丸善支店

前川善兵衛

丸善支店

片野東四郎

